

大正北部の中心地

大

正から国道439号線を梶原方面へ3㎞程上ると梶原川左岸に大正大奈路がある。町中を中津川川とイノ谷が通り梶原川に合流している。

大正大奈路は、大正北部地域の中心地で、大正中津川への入口でもある。それぞれの谷川に添って開けた竹の谷、八足、栗ノ木瀬と、隣接する木屋ヶ内を挟んだ飛び地の古味野々で構成されている。

中心街には、下道分校や中津川・下津井各小学校が統合された大奈路小学校があり地域の核になっている。学校の裏の小さな中洲のようなところには天満宮があり、大切に祀られている。また、街中には瀟洒な街路灯が整備され、地区の人たちのこの街への愛着を感じる。

昔の細い道が残る かつての宿場町

現

在の大奈路橋は昭和12年にできた。この界限は、かつての目抜き通りで宿場町でもあったようだ。今も昔の細い道が住宅の間に残っていて、歩いて山を越えて



いた当時は忍ばれる。古くからここにある旅館で昭和10年頃の宿帳を見せてもらった。なるほど全国から人が訪れている。お話によると、すでにその頃から、観光や四万十川のアユ目当ての人がかなりい



たようだ。そういえば、梶原川のアユはことに大きかったという話を聞いたことがある。

木材の集積地であった ことがうかがえる

対岸の西ノ川とを結んでいる旧西ノ川橋は、かつて木材を運ぶトロツコが走っていたという。その軌道の一部と暗渠（地下水路）が今も残っていて、大正大奈路が木材の集積地であったことがうかがわれる。



さて八足地域には、秋になると猪の形をした餅を作り、山の神様に供えるという、この集落独特の祭事がある。

知ってるようで
知らない私たちの町 ⑪

今も昔も大正北部の要のまち

大正 大奈路